

科目ナンバリング		U-LAS02 20010 LJ36							
授業科目名 <英訳>	日本古典講読論II Reading in Japanese Classics II			担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 教授 長谷川 千尋				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・後期		曜時限	火3		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
【授業の概要・目的】									
<p>「源氏見ざる歌詠みは遺恨の事也」とは藤原俊成の言葉であるが、歌人や連歌師は、『源氏物語』のどのような言葉・場面に魅力を感じ、その詩想を養ったのであろうか。このような観点から、文安六年(1446)、祐倫の手になる『山頂湖面抄』という源氏物語梗概書を読む。併せて『源氏物語』本文や、それを享受した作例等にも触れ、巻ごとに源氏絵を参照する。</p>									
【到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に取り扱った『源氏物語』本文、及びその梗概書や享受作品の内容を理解し、説明できる。 ・歌人・連歌師による『源氏物語』享受の特色を理解し、説明できる。 									
【授業計画と内容】									
第1回 『山頂湖面抄』概説・蛍 第2回 常夏・篝火 第3回 野分・行幸 第4回 藤袴・真木柱 第5回 梅枝・藤裏葉 第6回 若菜上・若菜下 第7回 柏木・横笛 第8回 鈴虫・夕霧 第9回 御法・幻 (匂宮・紅梅・竹河は割愛する) 第10回 橋姫・椎本 第11回 総角・早蕨 第12回 宿木・東屋 第13回 浮舟・蜻蛉 第14回 手習・夢浮橋 《学期末試験》 第15回 フィードバック									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・観点】									
定期試験(筆記)により評価する。									
----- 日本古典講読論II(2)へ続く -----									

日本古典講読論II(2)

[教科書]

使用しない
プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、授業の予習として、講義で取り上げる『源氏物語』の巻を原文で通読しておくのが望ましい。

[その他(オフィスアワー等)]

[主要授業科目(学部・学科名)]